

ささやかな句集 暖流

川村 愿

題 「すずしろ」(清色)

すずしろを たべのこしおり 孫のわん

題 「すいかずら」(忍冬)

すいかずら すいかずらとて 日の出みる

この句は「ほととぎす ほととぎすとて 明けにけり」  
(加賀の千代女の句) が頭にありました。

題 「たんぽぽ」(蒲公英)

たんぽぽを 手籠に入れて 土手をゆく

題 「太陽」「月」など

「太陽」は 灯火親しむ 主人公

私としては苦肉の策で「太陽」を主人公の名前にしました。

題 「虫」「昆虫」など

ガラス戸を ぼんと叩いた 五月蠅

これは中学2年頃 高知市北奉公人町の実家の縁側で、ガラス戸を叩いた蠅を見て浮かんだ句で、当時元氣だった父が側に居たので、云うと「よく五月蠅なんて知ってたね」とコメントしてもらった懐かしい句です。

本当は五月蠅なんて知らないけど、つい浮かんだものでした。

題「梅雨」

梅雨晴れに 物干し竿を 拭う母

題「虫」

里山の 樹々に語るか 蟬の声

サンシルバーは、山を伐り拓いて建てたもので、まわりを 樹々に囲まれていきます。

題「山」

特急の 車窓に 迫る 夏の富士

高知へ帰る新幹線の中から見た黒くて、どきつとするような富士山を思い出して書きました。

## 山はらに こまめ桜の 競い咲く

サンシルバー町田の四階食堂の窓から見える背の低い桜の木  
3〜4本、こまめ桜とも云うそうです。

題 「祝い」等

## 皿鉢(さわち)には 自生の柚子と 雪化粧

土佐の皿鉢料理は府中の庭に自生した柚子と淡雪の羊羹を盛った感じ。府中の自宅の庭には小鳥が落とした種からゆずの木に実がなりました。はじめ何の実か分からず、皮に軽く爪をたててみると、ゆずの香りがして、初めてわかりました。

今はすっかり大きな木になって、毎年沢山実をつけている筈です。ただ2〜3年自宅に帰って居ないので、放つたらかして、胸が痛みます。子供が時々帰って様子を見てくれますが、いつも駆け足の、短時間で、柚子を見てという余裕がなくて……。

植木屋さんに頼んで年1回は手入れをしてもらっています。

多摩の山 夕日に浮かぶ 渡り鳥

ドルフィン八王子の部屋から多摩の美しい山が見えます。  
夕日が綺麗です。

芍薬の 蕾開けば 濃いピンク

芍薬の蕾十本とカーネーションは淡いピンク。

芍薬の紅紫と良く合います。

〈カーネーションセットのお菓子は文明堂（赤いカーネーション  
十本とカステラのセットです）子供達の気持ちです。〉

